



全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について



朝日町教育委員会

令和8年11月

今年4月に小学校6年生・中学校3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果・分析と今後の取組をお伝えします。今年度も、どの教科（国語、算数・数学、英語）においても全国の平均正答率・スコアを上回り、おおむね良好な結果となりました。朝日町教育委員会では、今回の結果から分かる児童生徒の「強み」と「弱み」の分析を行いました。この調査結果を生かして、本調査で測られる一部の学力だけでなく、予測困難な厳しい社会のなかでも未来を切り拓いて生きていく力＝「人間力」を総合的に涵養できるよう、具体的な施策に反映していきます。保護者・地域の皆様には、家庭学習や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

本調査について、詳細は[令和8年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領](#)をご覧ください。



イメージキャラクター

「アーミン」

△低い：～-2ポイント
—ほぼ同じ：±1ポイント
○高い：+2～5ポイント
◎かなり高い：+6～10ポイント
☆きわめて高い：+11ポイント～

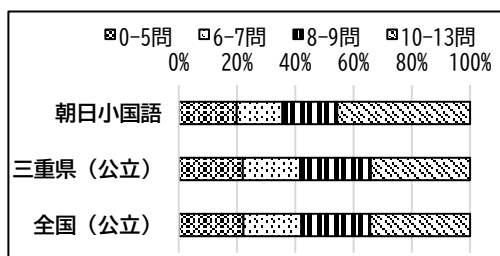
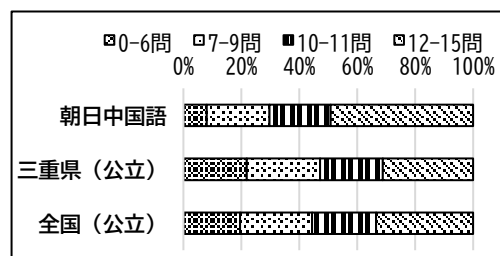
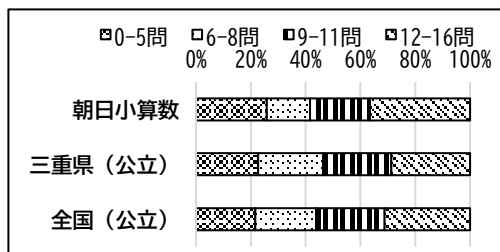
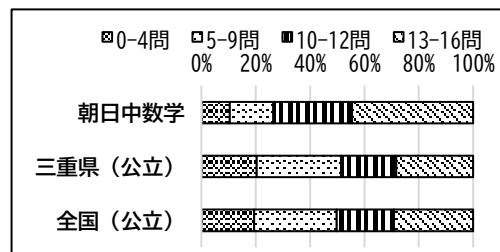
1 教科に関する調査の分析結果

(1) 平均正答率・IRT スコア（中学校英語）における全国結果との比較

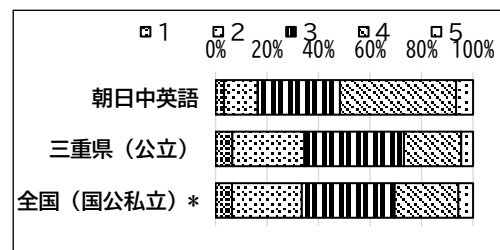
	小学校【6年生】	中学校【3年生】
国 語	○	◎
算数・数学	—	☆
英語	実施していません	☆

(2) 正答数ごとの層分布（全国四分位）※中学校英語はIRT バンド分布比較

*IRT スコアを1 から5 の5段階で評価し、5 が最も高いレベルで示したものの。



基礎・基本が定着している児童生徒の割合が高いことがわかります。
一方で、小学校算数においては、つまづきがみられる児童の割合が20%を超えており、基礎・基本の丁寧な学習支援が必要です。



(3) 学力の強み・弱みについての分析と今後の取組 () 内の数字はすべて全国との比較です。

<小学校・国語>

強み	2「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる」(+13.4)、2四「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」(+10.1)のように、問いを理解して必要な情報を使い、記述による回答がよくできています。
分析	「読むこと」の学習では、文章構成、筆者からの問いを表す表現、結論を導く接続詞などに着目して読むことの大切さを指導してきました。また、条件に合わせて自分の考えを文章で表現できるよう、発達段階に応じて指導してきました。こうした学習の定着が積み上げられていると考えます。
取組	今後も、「読むこと」「書くこと」の指導を教科書教材で丁寧に指導するとともに、「読むこと」の力を一般化できるよう、着眼点や読み方のポイントも指導していきます。特に、自分の考えを書くことは、他教科でも根拠や字数の条件などを明確に示して指導していきます。
弱み	3「話や文章の種類とその特徴について理解することができる」(-7.4)と、全国平均を下回りました。
分析	一文の中に、複数の意味や言葉が含まれた読み取りに課題があります。
取組	文章を視覚的にとらえて理解できるよう、記号や矢印を書き込んで読むことも提示し、自分で整理しながら、目的に応じて必要な情報を読み取れるよう指導していきます。

<小学校・算数>

強み	2(2)「百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができる」(+9.3)、3(4)「単位数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができる」(+8.1)となりました。
分析	公式やきまりの暗記よりも、「なぜそうなるのか」という論理的思考力とその考え方の道筋を大事に指導しています。また、数直線図によるイメージの具体化と数や式への抽象化とのつながりを関連付けて指導していることが結果につながったと考えられます。
取組	今後も、対話を生かした授業づくりにより、子どもたち一人一人が思考を言語や図表などで表現し、筋道立てた説明により、公式やきまりを導いたり、確かな理解につなげたりできるよう指導していきます。
弱み	1(1)「立方体の体積の計算による求め方について理解している」(-10.3)、3(2)「整数と小数の減法の計算ができる」(-11.6)となりました。
分析	整数に小数点がないため、位をそろえることができなかった児童が多かったと考えられます。また、公式を「縦×横×高さ」の言葉だけで暗記しているため、平面(面積)と立体(体積)の概念を混同していると考えられます。
取組	どちらも難しくないものの、間違えやすい問題です。どうやって計算するかという手順ではなく、なぜこうするのかという、本質的な道理を説明することと手順が結びつくように指導していきます。

<中学校・国語>

強み	平均正答率(+8.1)、正答率が低い記述式の正答率(+10.7)と、全体として国語の基礎・活用ともに高い定着が見られます。
分析	定期的な漢字テストや、定期的に文法事項の復習を行うことで、基礎的・基本的な知識・技能の定着に成果が表れていると考えられます。また、授業内で根拠を明確にして考えること、自分の意見を論理的に文章立てて表現することを意識して取り組んでいる成果と考えられます。
取組	今後も、既習の知識を利用して、思考を深める発展的な課題や記述問題への指導を充実させます。

弱み	平均正答率が、選択式 80.8%、短答式 63.2%に対し、「自分の考えを書く」「表現を工夫して書く」「助言を踏まえて文章を改善する」などの記述式は 56.2%と、他の形式ほど高くありませんでした。
分析	自分の意見を文章立てて表現することを授業内で重視しているものの、型にはめた表現方法に偏っていることが原因と考えられます。自分の考えを根拠を明確にして記述する問題や、表現を工夫・改善する問題を解く力の育成には、さらなる改善の余地があるといえます。
取組	今後は、目的や相手を意識した文章作成や推敲活動を充実させ、記述力・表現力の一層の育成を図っていきます。

<中学校・数学>

強み	平均正答率 (+14.0) と、全国平均を大きく上回っています。問題別でも、16 問中 11 問で全国をともに 10 ポイント以上上回っており、特に、数と式や図形の領域で高い正答率を示しています。基礎的な知識・技能が高い水準で定着していることが本校の強みです。
分析	少人数授業を展開して、基礎的・基本的な知識・技能を丁寧に育成してきた成果と考えます。
取組	今後も、基礎・基本の定着を継続するとともに、既習事項を活用して考える課題や、複数の解き方を比較・説明する活動を充実させ、数学的な思考・判断・表現する力をさらに伸ばしていきます。
弱み	全体として全国を上回る高い結果であるものの、本校の中では、データの傾向を根拠に説明する問題、数学的な方法を説明する問題、証明する問題など、数学的な考え方や判断の根拠を筋道立てて説明する問題の正答率が相対的に低い結果となりました。
分析	基礎・基本は定着しているものの、数学的な思考・判断・表現する力の育成にまだ課題があると言えます。
取組	説明や証明を求める問題において、問題解決の過程を「何が分かっているか」「何をを使うか」「なぜそう言えるか」の順に整理して考える活動を取り入れます。また、ペアやグループで考えを交流し、友達の考えを比較・検討することで、自分の考えを見直し、根拠を明確にして説明する力を育成していきます。さらに、授業の終末には、解答だけでなく「なぜそのように考えたのか」を振り返って記述する活動を継続的に行い、数学的な考え方や判断の根拠を筋道立てて説明する力の向上を図ります。

<中学校・英語>

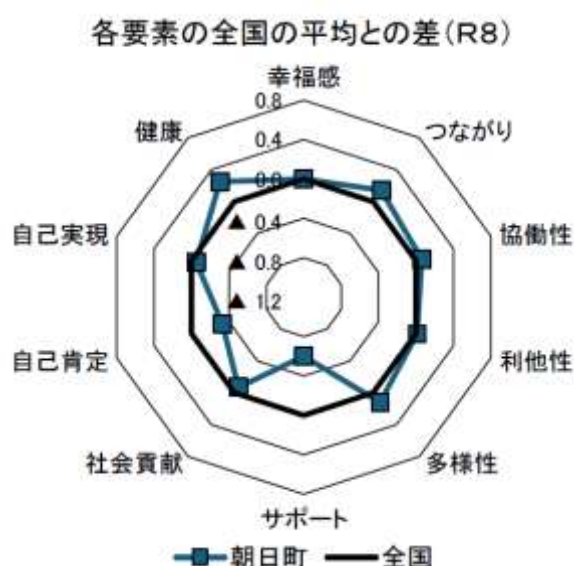
強み	英語の「聞くこと」「読むこと」において、必要な情報を聞き取ったり、文章から要点や概要を読み取ったりする力が身についています。また、情報を整理して適切な内容を選択する問題では、高い正答率が見られ、基礎的な知識・技能を活用する力が定着しています。
分析	日頃の音読活動や本文内容を理解する学習の成果が表れています。
取組	音読やリスニング活動を継続するとともに、聞いたことや読んだことをもとに自分の考えを話したり書いたりする活動を充実させ、読む・聞く・話す・書く技能を関連づけた言語活動を推進します。
弱み	基礎的・基本的な力は身につけている一方、本校の中では、自分の考えや理由を英語で表現する「書くこと」や「話すこと」に課題が見られます。
分析	情報をもとに英文を書いたり、自分の考えや理由を述べたりする記述・口述問題では、聞くことや読むことの問題と比較すると、正答率が相対的に低い傾向が見られます。特に、複数の情報を整理してまとまりのある英文を構成したり、理由を付け加えて表現したりする問題に課題が見られ、知識・技能を実際のコミュニケーション場面で活用する力に向上の余地があります。
取組	目的や場面を設定した「話すこと」「書くこと」の言語活動を充実させるとともに、モデル文を参考にし表現を広げたり、ペアやグループで考えを伝え合ったりする活動を継続します。また、パフォーマンステストや振り返りを通して、自分の考えを理由とともに表現する機会を増やし、実際のコミュニケーションで活用できる表現力の育成を図ります。

2 児童生徒質問紙調査における「人間力」*の涵養に関する調査の分析結果

*三重県で「ウェルビーイング（よりよく生きること）」にかかわるととらえている項目を養う力を、朝日町教育委員会では、「人間力」ととらえて、分析結果を公表します。

<小学校>

(1) 児童質問紙調査における「人間力」の涵養に関わる結果に関する全国の平均との差



各要素の全国平均との差 (R8)

主体的な学び やや高い
対話的な学び やや低い
深い学び やや高い

凡例

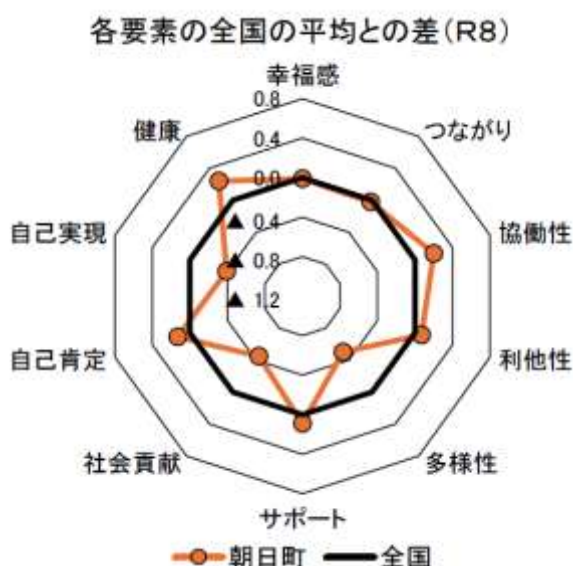
全国平均 やや高い +0.1～+0.5
同じ 0.0
やや低い -0.1～-0.5

(2) 「人間力」を涵養する教育に係る項目についての気づきに対する分析と今後の取組

気づき	ウェルビーイングを支える要素に関する項目のほとんどが、全国平均と同等または少し上回る結果となりましたが、対話的な学びを実感するところには至っていない状況です。
分析	対話を意識した授業づくりを進めてきた結果、他者とのつながりや、協働的な学びを実感できたと考えます。
取組	今後も、より一層の対話を大事にした授業づくりによる協働的な学びを推進し、対話を児童が実感できるようにしていきます。
気づき	(9)「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」87.2%(-4.2)、(13)「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」53.5%(-17.1)、(45)「先生が間違えたところをわかるまで教えてくれる」86.1%(-1.2)など、サポートを感じられていない児童が多い結果でした。
分析	心の相談員やスクールカウンセラー、ソーシャルスクールワーカーなど心理専門員を配置してきましたが、学級や学年において、個人の内面や特性を認める言葉がけが不十分であると考えられます。
取組	より一層、一人ひとりの良さを具体的に価値づける声かけや、結果ではなく、挑戦する意欲、努力している過程を認める声かけを進めていきます。また、教職員一人ひとりがアンテナを高くして、児童の困り感に気づき、寄り添う姿勢を大切にして、児童が安心して生活できる環境づくりをすすめていきます。
気づき	(23)家庭学習の時間(塾・家庭教師含む)について、平日・休日ともに1～2時間が最も多く、1時間以上勉強している児童の割合が全国平均よりも2割程度多い傾向でした。家庭での学習習慣が身についている児童が多いことが分かりました。
分析	児童の学習意欲と、それを家庭でしっかり支えていただいていることがわかります。また、主体的に学ぶ力を育てるために、学校から家庭学習の手引きを提示したり、自主学習ノートの掲示や交流を積極的に行ってきたことも成果に上げられると考えます。
取組	今後も、家庭と学校が協力して児童の学びの支援を推進していきます。

<中学校>

(1) 生徒質問紙調査における「人間力」の涵養に関わる結果に関する全国の平均との差



各要素の全国平均との差 (R8)

主体的な学び やや低い
対話的な学び やや低い
深い学び やや低い

凡例

全国平均 やや高い +0.1～+0.5
同じ 0.0
やや低い -0.1～-0.5

(2) 「人間力」を涵養する教育に係る項目についての気づきに対する分析と今後の取組

気づき	自己肯定感の向上について、自分の価値を認め、他人からも自分の価値を認めてられていると感じる生徒が少しずつ増加しています。
分析	学校教育ビジョンに本年度も「自己肯定感」の向上を掲げ、授業をはじめ学校生活のあらゆる場面で、自尊感情を高め、他者理解を促進する取組を進めてきた結果と考えます。
手立て	本質に迫る授業実践を積み重ねる中で、楽しく、主体的・対話的で深く考える学びとなるよう、日々の授業改善を積み上げ、人間力の育成につなげていきます。
気づき	将来の夢や目標を持つことへの意識向上について努めてきましたが、「自己実現」や「社会貢献」意識に課題が残る結果となりました。
分析	キャリアを築くために必要な力を提示し、職員で共通理解を図った上で、ソーシャルスキルトレーニングをはじめ、様々な取組を導入し、キャリア教育の充実を図ってきました。さらに、生徒や保護者向けに情報提供を積極的に行い、進路への興味関心につなげてきましたが、成果としては道半ばです。
手立て	毎年積み上げてきた実践を校内だけでなく、地域へも広げて継続・充実させていきたいと考えています。そして、自分らしい生き方の実現に向け、本物に触れる社会体験活動をより一層すすめていきます。
気づき	ウェルビーイング向上につながる各項目について、半分ほどの項目で全国平均を上回る結果につながりました。一方で、授業での学び方については、より一層の改善が必要であることが分かりました。
分析	今年度もウェルビーイングの向上を目指した研修を推進し、本音が語れる学級経営や、本気になれる学校行事・課外活動を通して、全教科で授業改善に焦点を当てて進めてきた結果であると考えます。
手立て	学習者主体の授業デザインをテーマに、更なる授業改善とマネジメントの深化、キャリア学習の推進を図り、ウェルビーイング向上を通して人間力の涵養を目指していきます。

3 クロス集計結果（教科に関する調査の正答率・スコアと児童生徒質問紙と関連が高かった項目）の分析結果

※ ウェルビーイングの要素、「学びに向かう力」、ICT

（１）各校の様子

<小学校> ◎当てはまるほど正答率が高い ▲正答率が低い

◎**心身の健康**（２）毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

◎**主体的な学び**（２２）分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

◎**自己肯定感・ICT**（３６－４）あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますと思いますか

◎**対話的な学び**（３８）５年生までの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

◎**自己肯定感**（５２）国語の勉強は得意ですか

◎**自己肯定感**（６０）算数の勉強は得意ですか

◎**自己実現**（６３）算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか

▲**心身の健康・ICT**（４）平日、学習やゲーム以外でどれくらいSNSや動画視聴などをしますか
→ ２時間を超えると極端に正答率が低くなりますが、半数以上の児童が当てはまりました

▲**心身の健康・ICT**（２４）平日、学校の授業以外にどれくらい勉強のためにICT機器を使っていますか
→ 学習目的であっても１時間を超えると正答率が低い傾向がありました

▲**サポート**（２９）あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書除く）
→ 25冊未満の児童の正答率が低い傾向でした

<中学校> ◎当てはまるほど正答率・スコアが高い ▲正答率・スコアが低い

◎**心身の健康**（１）朝食を毎日食べていますか

◎**心身の健康**（２）毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

◎**自己肯定感・ICT**（３６－２）あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますと思いますか

◎**自己肯定感・ICT**（３６－４）あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますと思いますか

◎**主体的な学び**（３９）１、２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

◎**自己肯定感**（５４）国語の授業の内容はよく分かりますか

◎**自己肯定感**（６２）数学の授業の内容はよく分かりますか

◎**自己実現**（６３）数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

◎**自己肯定感**（７１）英語の授業の内容はよく分かりますか

▲**心身の健康・ICT**（４）平日、学習やゲーム以外でどれくらいSNSや動画視聴などをしますか
→ ３時間を超えるとすべての教科の正答率・スコアが低くなる傾向で、特に英語においては、利用するほど顕著にスコアが低くなる傾向でしたが、３時間以上利用する生徒は４割以上でした

▲**自己調整**（２３）学校の授業時間以外に、平日どれくらい勉強をしますか
→ １時間未満の生徒の正答率・スコアは低い傾向でした

▲**サポート**（２９）あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書除く）
→ 25冊未満の生徒の正答率・スコアは低い傾向でした

(2) 今後の取組

① 教育委員会がすすめていくこと 「わかる・できるを実感できる授業づくりと主体的な ICT 活用の推進」

「学習内容がよくわかる」「得意である」と感じている児童生徒ほど正答率やスコアが高い傾向にありました。また、授業において、「伝える工夫をして発表する」「自分で考え課題解決に取り組む」といった主体的な学びや、「情報収集ができる」「プレゼンテーションのスライドを作成できる」といった ICT 活用に対する自信を持つ児童生徒ほど、学力が高いことがわかりました。教育委員会としては、毎日の授業で個別最適な学びと協働的な学びを効果的に設定することで、「好き」を育み、「得意」を伸ばし、児童生徒一人ひとりが毎日の授業の中で、「わかった!」「できた!」が実感できるよう、教員の指導力向上に向けた研修体制を強化します。また、ICT 機器については、単なる閲覧にとどまらず、児童生徒が自ら考え表現するツールとして効果的に活用できるよう、必要な環境整備と現場への支援体制を継続して充実していきます。



② 保護者の方と協力してすすめていくこと 「規則正しい生活習慣の継続とネット利用のルール再確認」

「毎日同じ時刻に寝る」「朝食を食べる」児童生徒の正答率やスコアが高い傾向がありました。2つの質問項目については、小中学生ともに8割以上が「している」「どちらかといえばしている」と回答しており、多くのご家庭で、規則正しい生活習慣の確立にご協力いただいていることがわかり、改めて感謝申し上げます。一方で、学習に影響を及ぼすほど SNS や動画視聴等を長時間利用している児童生徒が、全体の半数ほどいることが明らかになりました。また、学習目的であっても1時間を超える ICT 利用には注意が必要です。インターネット等の長時間利用は学力だけではなく、心身の健康にも深刻な影響を与えます。SNS や動画視聴等の利用ルール(時間帯や使用上限)を決めるなどの、インターネット等との上手な付き合い方を学校でも指導していきます。ご家庭でも視聴制限機能の活用等を子どもとの話題にのせ、親子で話し合いながら、子ども自身がルールを決められるようサポートをお願いします。あわせて、読書に親しむ環境づくりや、短時間であっても毎日継続して机に向かう学習習慣づくりについても、引き続き温かい声かけとご支援をお願いします。

学習含めネット利用は
寝る1時間前まで
小学生は2時間まで
中学生は3時間まで
おうちの人と一緒に!

※上記は今回結果に基づいた
例です。各ご家庭のルール作
りの参考にしてください。



③ 地域の方と協力してすすめていくこと 「学ぶ意義や将来とのつながりを実感できるキャリア教育の推進」

「学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つ」と実感している児童生徒ほど、正答率やスコアが高い傾向にありました。学校で学ぶ知識や、課題解決のプロセスが、自らの将来や実社会とどのように結びついているかを理解することが、学びに向かう大きなモチベーションとなります。すべての児童生徒が将来に夢や希望をもち、自立して未来を切り拓いていけるよう、今後もキャリア教育の充実を図ります。地域の方々には、日頃より職場体験の受け入れやゲストティーチャーとしての参画、各種行事への協力などを通じ、児童生徒が社会とリアルに関わる貴重な機会を提供していただいております。今後も児童生徒が社会とのつながりを感じ、学んだ知識を生きる力へと高めていけるよう、地域全体で「人間力」を育む教育活動へのご理解とご協力をお願いします。

④ 児童生徒のみなさんに取り組んでほしいこと 「生活リズムを整え、自分らしい学びを見つけよう!」

「早寝・早起き・朝ごはん」に加え、SNS や動画を見る時間を上手にコントロールすることが、みなさんが持っている本来の力を発揮するための大切な土台になります。おうちの人とネットの利用を含めた生活のルールを決めて、生活リズムを整えましょう。そして、毎日短時間でも継続して学ぶ習慣をつくっていきましょう。

また、学習については、「授業がよくわかる」「自分で学び方を考え工夫している」「伝える工夫をして発表している」という人ほど、自分の力を大きく伸ばせていることがわかりました。日々の学習の中で「なぜだろう?」という疑問を大切に、自分なりに工夫したり、まとめたりして、自分らしい学び方を見つけましょう。また、うまくいかないときは周りの友達や大人を頼るなど、「学びに向かう力」を伸ばし、自分の可能性を信じてじっくり粘り強く取り組んでみてください。挑戦するみなさんを私たちは全力で応援しています。

4 三重県の公表状況

三重県教育委員会による県全体の概況等に関する公表内容については、県 HP を参照してください。